

想定外 前向きに捉えて

玉野高80周年で記念講演

元ヤクルト捕手・古田氏

都合により 写真は掲載 できません

玉野高の創立80周年式典後、記念講演した古田氏

とか仕送りを」と伝えるとき、「働いてお金をつくるから頑張りなさい」と快諾してくれた。大学野球で活躍し、

銀メダルに貢献、90年にドラフト2位でヤクルトに入団した。頭脳派捕手としてヤクルトの黄金期を支えた古田氏。「人生は予想通りにいかない。いい」と生徒約440人を祝福した。玉野高創立80周年の祝賀式典後、記念講演した。(民直弘)

4年で迎えたドラフト会議。事前に「1位か2位で指名」と伝えていた球団があり、会場には大勢の報道陣が集まった。だが、指名されず。眼鏡の捕手という理由だった。

実家にも、ドラフトの結果を楽しみに近所の人が集まっていた。「恥をかき、みんなに迷惑をかけた。意地でもプロにならなアカん、と思った」と語気を強めた。

トヨタ自動車に入社し、2年間、工場勤務しながらプレー。「眼鏡をかけていても、誰よりもうまいと証明してみせる」と、挫折を糧に努力を重ね、1988年のソウル五輪に日本代表として出場

プロ野球・東京ヤクルトスワローズの4度の日本一に貢献し、球界を代表する捕手として活躍、選手兼任監督も務めた古田敦也氏が4日、玉野高で講演した。決して平たんではなかったプロ入りまでの野球人生を振り返り、「想定外のこと

が、甲子園につながる予選は1回戦突破がやっと。「プロになるなんて全く思っていなかった」。

転機となったのは、必死に受験勉強して合格した立命館大への進学。裕福な家庭ではな

ることが大切」と生徒に呼び掛けた。兵庫県出身の古田氏は、地元の県立高に進学。野球部に入部したが、甲子園につながる予選は1回戦突破がやっと。「プロになるなんて全く思っていなかった」。

転機となったのは、必死に受験勉強して合格した立命館大への進学。裕福な家庭ではな